

No.15 戦後文学を読む－花田清輝編(1)

■講座内容

地震、原発事故、オリンピックや万博の狂騒、テロリズムの簇生……、と乱世です。二〇世紀最大の乱世は世界大戦の頃でしょうが、その後、所謂「復興」の進むなかで、日本の戦後文学は、戦争の衝撃を内面化しながら逡巡しました。そのなかで、「戦後文学」そのものを演出した仕掛け人の一人が花田清輝という批評家・小説家です。今回は彼の戦後デビュー作『復興期の精神』のなかから、資本主義の〈精神〉を論じた部分について考えたいと思います。文学と政治、そして資本主義、その関係をどのように考えたらよいのでしょうか。

■開講日時 7月9日(火)～7月23日(火) (全3回)

■担当講師 渡邊 史郎(香川大学教育学部准教授)

■募集人員 30人

■受講対象 一般成人

■会場 香川大学地域連携・生涯学習センター

■受講料 6,000円

■受付締切 7月2日(火)

回	月日	時間	テーマ
1	7月9日(火)	13:00～15:00	「素朴と純粹」について
2	7月16日(火)		職域奉公論のなかで
3	7月23日(火)		マックス・ウェーバーと精神史